

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270600228		
法人名	株式会社CONTIA		
事業所名	グループホームひのき別館		
所在地	島根県江津市都野津町2340-5		
自己評価作成日	令和5年12月15日	評価結果市町村受理日	令和6年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江上市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和6年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者様、個々の意思を尊重し、それが叶えられるように「寄り添うこと」を大切にしている。介護理念に掲げている「自分らしく、のんびり暮らす」生活が送れるよう、また御利用者様ご自分の家として安心して暮らせるよう全職員が心掛けている。全職員は御利用者様の「心を満たすケア」を念頭に一緒に寄り添い・支えあいながらという姿勢で、共に暮らしを支えており、ホーム内では季節の花や畑のお世話を得意とされている方、食後の食器の後片付けやテーブル拭きを率先してされる方、洗濯物干し・たたみが得意な方など日課にされている方がおられ、御利用者様は得意分野を活かしながらひのきで様々な過ごし方をされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ここ数年コロナ禍の生活が続いているが、利用者からはコロナ感染者は出ていない。職員はコロナ感染症にかかっても持ち込まないよう徹底しており、定期的な検査を行い早めの対応を心掛けている。ボランティアの受け入れ等地域との関わりの機会はまだまだ少ないが、講師派遣の受け入れや、施設内研修に外部講師を要請するなど関わりが続くようにしている。管理者は、ここ数年職員の入れ替わりは少ないが全体的に高齢化しつつあることや、介護従事者が減っている実感から安定した雇用の継続には危機感を持っている。同時に人材育成の必要性も感じており、個々のレベルアップの為に幅広い研修を行っている。利用者の認知症状の安定の為に精神科の受診には付き添い、日々の様子を注意深く観察することに繋げている。今後もアットホームな中で生活が続くよう個別援助充実に努めていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りや、ケアの場面を通じ、理念の共有を図り、また毎月1回開催する職員会議の場では理念に添ったケアが共通認識で出来ているか職員同士で意見交換し、確認・反省している。	職場の教養という冊子を用いて、当日分を読み合い、意見、感想を言い合う形で意識統一を図るようにしている。開所当時から職員は少なくなったが、経験年数を重ねた職員が多く、理念を引き継ぎながら業務に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は自粛規制の為、できていないが地元での公民館行事・地域の祭り・地域の運動会・文化祭・健康体操等に参加したり、ひのきの夏祭り・敬老会・クリスマス会にボランティア様が出し物をする等、地域との交流に努めている。	コロナ禍から地域行事は減っているが、月1回の認知症カフェには誘いがあり、行ける時には少人数で参加して、料理を作ったりお茶したり交流を図っている。ボランティアの受け入れは中止の状況だが、講師派遣は行い地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	統括管理者は、認知症の講演会等(キャラバンメイト)の依頼があれば講師を受け入れ、啓発活動に参加するよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価機関からの報告・説明から、取り組んでいきたいテーマを決め、運営推進委員様から御意見・御要望・改善提案などを受け、職員会議で議題に出し、話し合いを行い問題を明確にして、改善し、サービスの向上に生かしている。	2か月に1回、集合しての会議に切り替え開催している。家族代表、包括、他のグループホームや福祉用具事業者、近隣の介護事業者の代表者、研修の外部講師等の参加で行っている。利用者の状況や行事、研修等の報告を行い、意見を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在は自粛規制の為、できていないが定期的にある運営推進会議・地域の健康体操・クリスマス会などに御参加して頂き、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議には毎回包括より参加があり、専門的立場から意見を得ている。生活保護担当課からは毎月1回訪問を受けて情報を共有したり、将来的なことも含め家族と話し合いの機会を持つなど、良い関係性が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は自粛規制の為、参加できていないが管理者・職員は、「身体拘束」についての講演会・研修会に参加し、毎月1回行っているリスク会議においても、各スタッフ共に意識を持って理解・実践するように努めている。	日中は玄関の施錠は行わず、散歩が日課の方にも職員と一緒に付き添っている。転倒の危険性がある方には、みまもりセンサーを付けモニターで管理している。定期的に委員会を行ったり、研修で意識を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の出前講座を依頼し、「虐待防止」についての講演会に参加するなど、防止法び学ぶ機会を持っており、全職員の共通認識としている。また、各担当職員・管理者が変化・虐待がないか常に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は自肅規制の為、参加できていないが管理者・職員は研修会に参加したり、定期的に勉強会を開き、権利擁護に関する知識・理解を深めるように努力している。必要な際は、市の包括支援センター職員とも協力・連絡を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、利用料金・加算関係・医療連携体制・リスク管理・ケアプラン等事業所の理念を踏まえて時間を作って丁寧に御理解頂けるまで説明している。契約書改正時には再度、書面で説明し、十分な理解を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも意見が言い合えるように、玄関に御意見ポストを設置している。年一回、家族会と運営推進会議を一緒に開催し、運営推進委員様に家族様が思いを遠慮なくお話し出来る場を提供している。頂いた御意見は、会議で議題に出している。	コロナ禍で家族会は中止が続いている。毎月1回、行事の写真に日頃の様子を知らせる文章を書き送っている。利用者本人の言われた言葉や表情が伝わるようにしている。コロナ感染症が5類になり、面会は増えているが、管理者はライン、メール、電話等、家族に合わせて関わりを持つようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、何でも言いやすい様な雰囲気作り心掛け、特に職員会議の場は全員発言の場になるように会議の司会者とも事前に打合せなどもしている。必要な場合には個別面談も実施している。	年2回の賞与の前に個人面談を行っている。面談前には自己評価を行い、話合いに繋げている。モチベーションを高めることやケアに対する思いを聞く機会としているが、個人的に必要と判断した場合も声掛けて話を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に勤怠を把握し、定期開催をしている会議などを通じて意見・要望を吸い上げ、働き甲斐のある職場になるように取り組んでいる。時には、時間を作り、個人面談等も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会・講演会・介護塾など各職員・パートの協力の下、参加することに努めている。研修内容については、参加者が会議で情報提供をし、全職員で共通認識し、サービスの向上に生かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は自肅規制の為、参加できていないが、ケアマネ部会や研修で知り合った市内・市外の同業者と意見交換の機会があれば、お互いの施設見学を実施し、情報提供や交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時より、常に御家族様・御利用者様の求めているものを理解しようとコミュニケーションを密に図り、事業所としてどのような対応ができるか全職員で話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在は自粛規制の為にできていないが、日々の面会時・家族会・各行事などで家族様のお話をよく聴き、困っている事・不安な事・分からない事など明確化し、把握・改善することによって信頼関係をより一層築く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時より、御家族様・御利用者様の求めておられる支援を理解し、相談・話し合いを繰り返し、必要なサービスに繋がられる様、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、うちとけて何でも言い合える雰囲気を作り、一緒に生活することを納得して頂き、人生の先輩として教えを頂く様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様の訴え・お話にしっかりと耳を傾け、理解・受け止め、また御本人様の意向もお聞きし、絆を深められるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は自粛規制の為にできていないが、御希望があれば、ひのきの夏祭り・敬老会に友人・知人を御招待したり、いきつけの美容院へ出かける、お墓参りに出かける、外食・お買物に出かける等の支援を御利用者様の希望に添って行っている。	コロナ感染症が5類になり面会は増えているが、以前のように外食や買い物には出かけていない。受診の帰りに自宅や墓の近くに立ち寄る機会を持つようにしたり、知り合いの美容師さんに来てもらい別室でカットをしてもらったり、行きつけの美容院にパーマに出かける方もある。	色々な方法で今までの関係が継続するように努めていただきたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様同士が毎日楽しく過ごせるよう、担当職員が、個別に相談に乗ったり、園内散歩・できる趣味作りなど皆様が参加し、楽しめるよう場面作りを職員一人一人が常に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は自粛規制の為にできていないが、毎年、時期をみて当施設から退所された御利用者様へ会いに行ったり、退所された御利用者様の御家族様が気軽に立ち寄ったり、毎年、年賀状を送ったりと関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランに添った支援に努め、御本人様の思いなどの把握に努めている。会議などで議題に上げ、希望・生きがい等、日々の生活の中からヒントを得て導き出すなども行っている。	利用者が1番リラックスする時間として、入浴時や寝る前、おいしい物を食べているときなど、職員と1対1の時間を大切に話を聞くようにしている。おいしい物を食べたいという意見が多く聞かれる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	管理者、担当職員は入居時、アセスメントシートを使用し、生活歴など把握しようと努力している。また、日々の生活の中で、何を思い・望んでおられるかを時間を掛け把握し、一緒に生活することで理解・共感している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、御本人様の出来ること・生きがい等を日々の生活の中から見極め、一人一人役割を持って頂き、自分の出来ることをお願いしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設ケアマネが、責任を持って御本人様・御家族様より情報を得て、アセスメントを行い、会議等でケアカンファレンスをし、総合的に支援を行う計画を実施している。	コロナ禍の為家族参加での担当者会議はできていないが、事前に面会時や電話等で意見を聞き、できるだけ多くの職員の参加で担当者会議を行うようにしている。職員個々の気づきを計画に繋げるように、変化に合わせた計画になるように心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各勤務職員・パート社員は、必ず勤務前には業務日誌・申し送りにて日々の生活に変化がないか確認している。介護記録は電子カルテに詳しく記入し、毎月の会議で検討・修正を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各職員・パート社員は、御利用者様の状態の変化を常に把握し、御利用者様の希望、そして御家族様の希望をベースに事業所として成り立つ、枠に捉われない姿勢は常に意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は自粛規制の為にできていないが、通院の送迎や、御家族様と一緒にホーム内の食事・お茶会等、御本人様のニーズに対応した柔軟な支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医による往診・受診・通院により、常に適切かつ迅速な医療を受けられるように支援し、体調変化時には御家族様と連絡を取り合っている。	定期的な往診が可能で、急変時等指示が得られる協力医への変更をお願いしている。精神科の受診は職員が付き添い、日頃の様子を詳しく伝えることで指示を得ており、状態の安定に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の下(かかりつけ医は国沢内科医院)、24時間体制で報告・連絡・相談・対応が行なえるよう支援整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在は面会規制の為にできていないが、御利用者様が入院した際には、すぐに必要な情報を作成して提供し、頻回のお見舞い・支援により早期の回復に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族様の協力・意向があり、またかかりつけ医の同意があればターミナルを行う方針はスタッフ間で統一されている。各協力医療機関からも協力の同意を得ている。マニュアルも作成し、スタッフが全員が柔軟に対応できるように取り組んでいる。	職員体制や設備面等が不十分なこともあり看取りは行っていない。重度に向けては家族関係者と話し合いの機会をもちながら、適した施設の申し込みをするなどの対応をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時に備え、緊急時のマニュアルを作成し、常に柔軟に対応できるように備えている。年一回、消防署より応急手当・心肺蘇生法等の研修を取り入れている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難・通報・消火マニュアルを作成し、消防署・近隣住民・近くの交番・火災通知器会社・地域の消防団等の協力を得て、年2回の避難・通報・消火訓練をさまざまな想定で実施し、職員には柔軟・迅速に対応できるように努めている。	コロナ禍以前は地域の協力を得て訓練を行っていたが、ここ数年は施設内で訓練を定期に行っている。自然災害に遭いにくい場所であり、主に火災中心で日中、夜間の想定で実施している。施設近くに住む職員が多く、支援体制はある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者様とコミュニケーションを密に図り、信頼関係を築き、個々の能力に合わせた対応を心掛けている。職員が気になった言葉掛け等は、会議で議題に出し、御本人様にとって誇りやプライバシーを損ねていないか検討している。	虐待や身体拘束、接遇を含めて研修計画を作成し、繰り返し行っている。市の出前講座を利用したり、外部講師によるマナー講座を受け入れたりしている。声がけや言葉使いで気になる場面では注意し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、御利用者様が思いや意向を表現できるように声掛を工夫してみたり、個々に分かる説明をし、自分ができていることを楽しみながら行えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日をどのように暮らしたいか日々、様子観察・声掛を行い、一人一人のペースを大切に、御本人様の希望に添って自分らしくのんびり暮らせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在は自粛規制の為にできていないが、御本人様の行きつけ・希望の美容院に行かれたり、好みの洋服を着られたり、化粧・マニキュア等の支援している。また、日々観察し、興味を持たれたことが出来るように心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力に合わせ、スタッフと共に調理・盛り付け・食事・片付け等を負担にならない程度に行っている。頂いた食材は、感謝しながら皆様、楽しんで食事をしている。食事メニューを皆様が見える位置に飾っている。	まとめて買い物をして、当日の調理担当がメニューを決め、3食作っている。調理好きの方は時間になると手伝いに出てくる方が多く、特に若い職員の時には気にされている。少し離れた場所で職員もできた物を一緒に味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御利用者様の健康状態を常に把握し、個々に合わせてきざみ・ミキサー食にしたりと工夫をし、見た目も食欲がわく様に盛り付けにも気を配り、食事・水分量は常に記録して把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて入れ歯を外して頂き、入れ歯・舌をブラシを使用して綺麗にする等、支援している。また、職員は口腔ケアの研修会等あれば参加出来る様、日程調整し、ケアの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひのき独自の排便表を作成し、日々の変化を細かく記録し、変化時は必ず申し送りにて体調変化・状況を把握し、支援を行っている。	食事前や就寝前などには声がけし、トイレに行くリズムを作るようにしている。排便表を細かく記入するようにして、不快にならないようにしている。スムーズなお通じの為にヨーグルトを摂ることを続けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘と不穏の関係は、スタッフ間で共通認識している。毎朝、ヨーグルトを摂取し、時には夕食時にも摂取して頂く。毎日、負担にならない程度に散歩・体操している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週に3～4回の入浴だが、御本人様の希望・要望があれば、昼間だけでなく夜間にも入浴できるように職員の調整を行い、入浴できる用意はしている。	少し大き目の家庭浴槽の為、介護度の高い方で中に入れられない場合は、足浴をしながらシャワー浴対応としている。2日に1回のペースで入れるようにしており、寝る前や夜の足浴を希望する方には、調整して対応するようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御利用者様、一人一人が自由に見たいテレビ番組を見たり、自室で昼寝したりと、希望・要望に添った過ごし方をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全入居者様のお薬説明書をファイル保存し、いつでも入居者様のお薬が理解できるようにカルテ台に置いてある。症状の変化があった場合は、24時間対応のかかりつけ医に連絡し、支持を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おやつ時、食事時、レクリエーション時など昔のお話が出来よう職員も一緒になって場面作りや、声掛けを心掛けている。また、個々に編み物・自室のお掃除・料理のお手伝い・散歩等、負担にならない程度に顔色をみながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は自粛規制の為、できていないが、個別のお墓参り・買物・美容院・外食など同行スタッフのシフトを組み、御家族様の協力も得て、一緒に行くなどの支援を行っている。	コロナ禍以前のように外出はできていないが、少人数で出かけた時、受診の帰りにもドライブで景色が楽しめるようにしている。散歩が日課の方は、近くの公園まで行ったり、庭でお茶をしたりして外気に触れる機会を持つようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は自粛規制の為、できていないが、御家族様の意向もあり、全員ではないがお金を所持して頂き、買物・美容院・外食等、職員の付き添いのもと、希望により自らお支払いされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様からかかってきたお電話にゆっくりと話して頂ける様に別室に椅子等準備している。御本人様から、連絡を取りたいと言われた際は、職員が付き添い電話・手紙等を気兼ねなく使用できるよう準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・中庭等には、腰を掛けてゆったりと過ごして頂ける様に椅子を設置している。また、入居者様が台所で職員と一緒に食材の下ごしらえが出来るよう十分なスペースを確保している。	道路に面しているが車の騒音は感じず静かである。ダイルームはゆったりくつろげる十分な広さがあり、ソファで休めるようになっていいる。玄関、中庭にもベンチを置き、お茶できるスペースがある。草木も植えられ景色もよく見え、季節の変化を感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間は家庭的であり、塗り絵を掲示したり、雛人形・正月飾りで季節を感じて頂いたり、窓際には観葉植物や季節の花を飾っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、テレビ・使い慣れたタンス・時計・位牌・伴侶、子供、孫の写真・アルバム等が持ち込まれている。入居の際には御遠慮なく使い慣れた物・趣味の物を持って来て頂けるように説明している。	使い慣れた物も持ち込みを薦めているが、大きめのクローゼットなど収納がまとめるため、あまり多くは置いていない。使っていたテレビを置いたり写真を飾る方は多いが、就寝までの時間をホールで過ごす方が大半で、部屋は寝る所と分けて考えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎月の職員会議・リーダー会議の個別ケアカンファレンスでスタッフ同士意見交換をし、共通認識で御本人様を理解するよう心掛けている。		